久しぶりに西播磨 古代からの製鉄の地「宍粟市千種」を訪ねる 2013.7.19.

千種天児屋たたら跡・岩鍋古代製鉄発祥の地碑を訪ねる

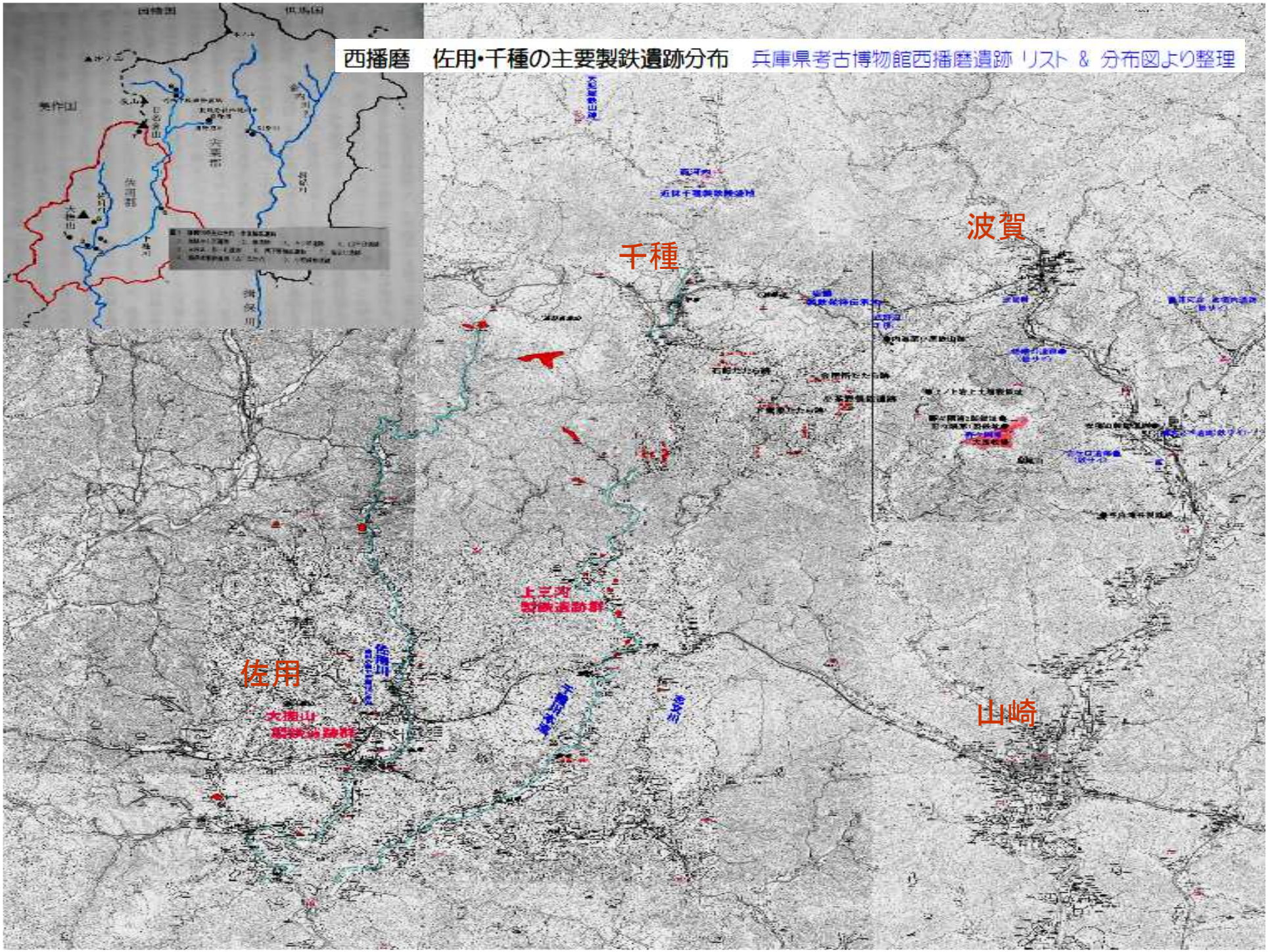




西播磨中国山地の山奥 佐用・宍粟は古代からの製鉄地帯。 宍粟鉄・千種鉄の名は刀剣の材料として有名で、千種岩鍋には製鉄神「金屋子神」が降臨し、日本で始めて製鉄技術を伝えたとの伝承も残っている。 周辺のたたら跡を幾度も訪ねたことがある。また、カタクリやひまわりが咲く佐用には毎年訪れるのですが、その奥千種にはちょっと遠くてご無沙汰。

久しぶりに朝早くでて、佐用のひまわりを見た後、千種に足を伸ばしました。 千種のたたら跡として整備されている「天児屋鉄山跡」を見て、千種から東へ 岩鍋の古代製鉄発祥地の碑のところから、新たに開通したトンネルを抜けて、波賀町へ山越をして、揖保川沿いを一宮町安積山から山崎へ原チャリを走らせて帰ってきました。

1. 江戸時代初期から明治まで操業の千種 西河内 天児屋鉄山跡再訪 学習館併設のたたら公園
2. **今ユリの花満開のちぐさ高原の「ユリ園」に立ち寄る**
3. **千種川水系家千種から東の揖保川水系へ 山越ルート国道429号線 宍粟の製鉄地帯の中心部**
   岩鍋の古代製鉄発祥の地碑を見て 波賀・一宮町から山崎へ


西播磨　佐用・千種の主要製鉄遺跡分布　兵庫県考古博物館西播磨遺跡 リスト ＆ 分布図より整理
千種
波賀
佐用
山崎
上三河
製鉄遺跡群
大撫山
製鉄遺跡群

久しぶりに千種天児屋たたら跡・岩鍋を訪ねる 2013.7.19.



千種　岩鍋　日本の製鉄発祥の地の記念碑



製鉄神　金屋子神

播磨国宍相(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。
村人にタタラによって鉄を作ることを教え，様々な道具を作る技術を人々に授けた。 そして，「これから西の方へ行き，鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と，白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後，金屋子神は出雲国に飛来し，能義郡比田の森に降り立ったと言う。



千種　天児屋たたら跡



（上月町）
2 金屋中土居遺跡（上月町）
3 カジ屋遺跡（佐用町）
4 山平B遺跡（佐用町）
5 永谷B・C遺跡（佐用町）
6 坂遺跡（佐用町）
7 西下野製鉄遺跡（南光町）
8 滝谷U遺跡（佐用町）
9 安積山遺跡（一宮町）
10 小茅野後山遺跡（山崎町）

製鉄神　金屋子神と千種　古代製鉄発祥の地伝承

播磨国宍相(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。



村人にタタラによって鉄を作ることを教え，様々な道具を作る技術を人々に授けた。 そして，「これから西の方へ行き，鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と，白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後，金屋子神は出雲国に飛来し，能義郡比田の森に降り立ったと言う。

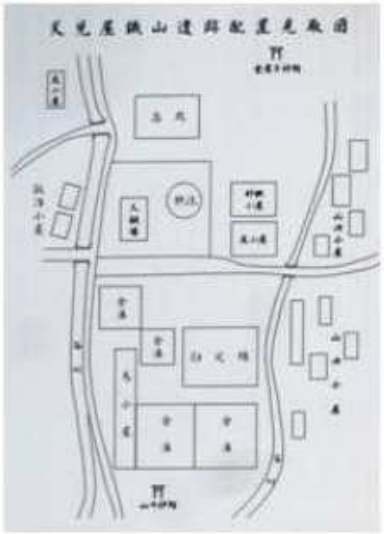




近世（江戸時代初期から明治まで操業）の製鉄隆盛地　千種の鉄山跡



上流側 高殿側から天児屋たたら跡全景　　2013. 7. 19.





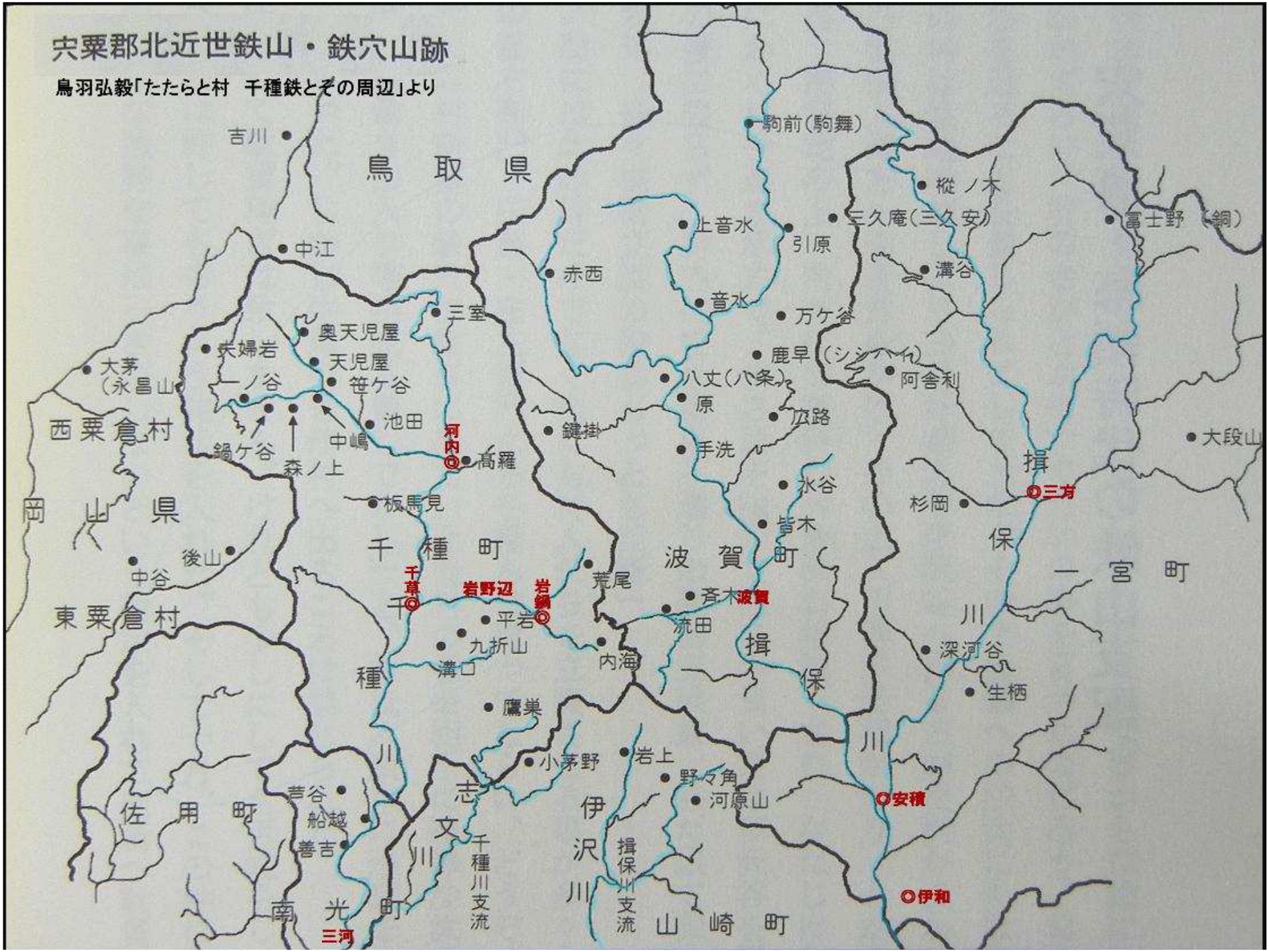
勘定場前より下流側



下流側 山ノ神の手前 学習館前より

千種　天児屋鉄山　　全景　　2013. 7. 19.


宍粟郡北近世鉄山・鉄穴山跡
近世の鉄山･鉄穴跡
縦ノ木
上音水
三久庵(三久安)
引原
中江
赤西
溝谷
音水
三室
万ケ谷
奥天児屋
天児屋
笹ケ谷
池田
中嶋
森ノ上
高羅
鍵掛
手洗
氷谷
杉岡
三方
千種町
波賀町
後山
岩野辺
荒尾
斉木
平岩
九折山
内海
深河谷
生栖
小茅野
岩上
野々角
河原山
安積
伊和
千種川支流
揖保川支流
山崎町
南光町
三河


宍粟郡北近世鉄山・鉄穴山跡
鳥羽弘毅「たたらと村　千種鉄とその周辺」より
吉川
鳥取県
駒前(駒舞)
縦ノ木
上音水
三久庵(三久安)
富士野(銅)
引原
中江
赤西
溝谷
音水
万ケ谷
三室
奥天児屋
夫婦岩
鹿早(シシハイ)
大茅(永昌山)
天児屋
八丈(八条)
阿舎利
一ノ谷
笹ケ谷
原
広路
池田
鍵掛
大段山
西粟倉村
鍋ケ谷
中嶋
河内
高羅
手洗
揖
森ノ上
水谷
三方
板馬見
杉岡
岡山県
皆木
千種町
波賀町
保
後山
中谷
一宮町
千草
岩野辺
岩鍋
荒尾
東粟倉村
斉木
波賀
川
平岩
流田
揖
深河谷
九折山
内海
溝口
保
生栖
種
鷹巣
川
小茅野
岩上
野々角
芦谷
志
河原山
安積
佐用町
船越
伊
善吉
文
千種川支流
沢
揖保川支流
伊和
南光町
川
三河
山崎町

久しぶりに西播磨 千種天児屋たたら跡・岩鍋を訪ねる 2013.7.19.

西播磨中国山地の山奥　佐用・宍粟は古代からの製鉄地帯で　宍粟鉄・千種鉄の名は刀剣の材料として有名で、千種岩鍋には製鉄神「金屋子神」が降臨し、日本で始めて製鉄技術を伝えたとの伝承も残っていて、　周辺のたたら跡を幾度も訪ねたことがある。

カタクリやひまわりが咲く佐用には毎年訪れるのですが、その奥になる千種にはちょっと遠くになりご無沙汰。　久しぶりに朝早くでて、佐用のひまわりを見た後、千種のたたら跡として整備されている「天児屋たたら跡」　岩鍋の製鉄発祥の地の碑を眺めて、千種から東の波賀町へ山を越えて、揖保川沿いを一宮町安積山から山崎へ原チャリを走らせて帰ってきました。

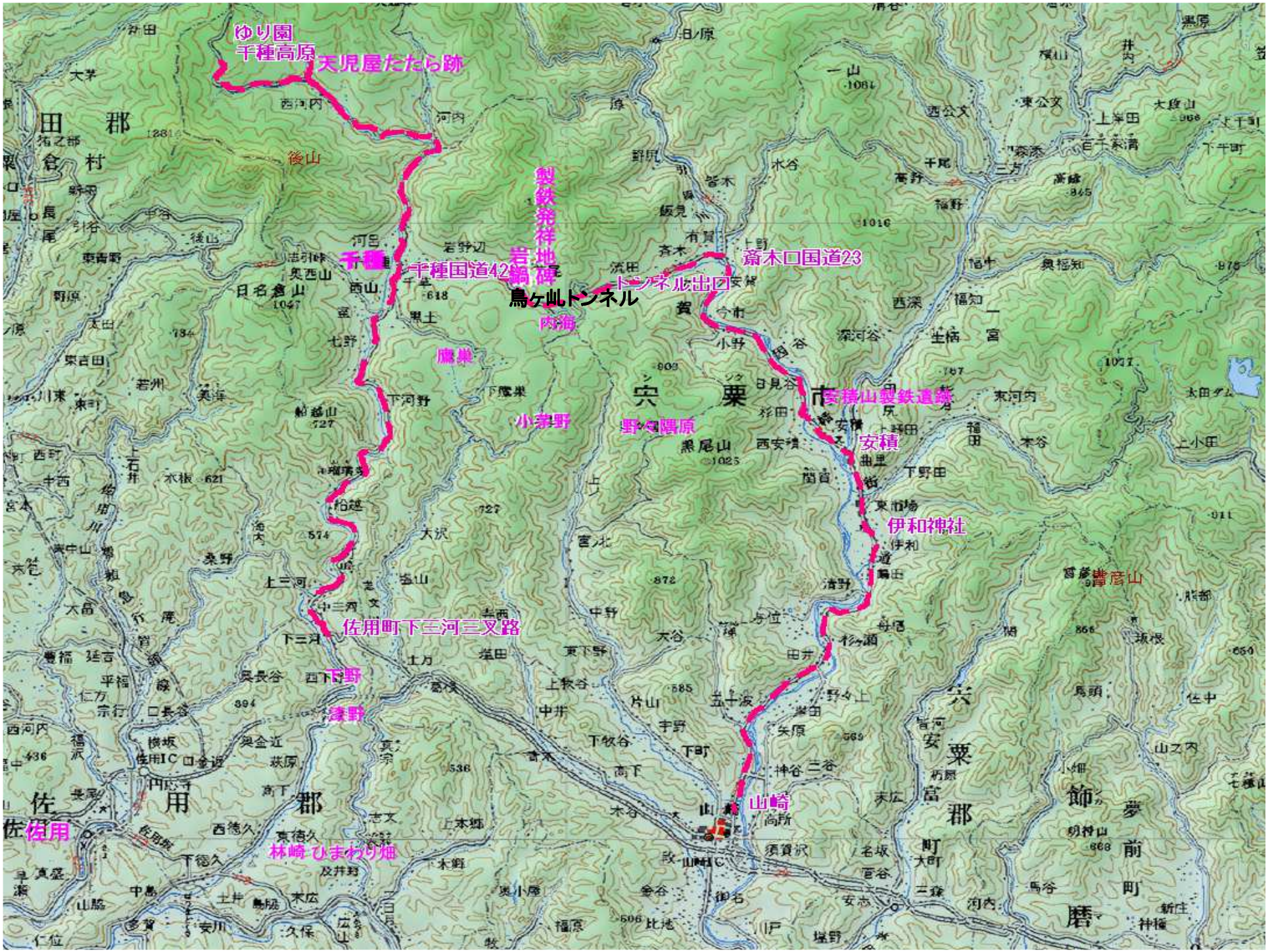
久しぶりの千種　よく整備され維持されている天児屋たたら跡のすぐ近くには山腹に満開のユリの花が咲き乱れるユリ園ができ、また、製鉄発祥の地　岩鍋には峠を越えるトンネルができていて、難なく千種川水系から揖保川水系へ越えられました。　ちょっと行かなかった間に随分変わったと・・・・・。でも　製鉄遺跡がよく整備され、維持されているのはうれしいかぎり。

久しぶりの千種天児屋たたら跡をレポートしました。




久しぶりに千種天児屋たたら跡・岩鍋を訪ねる 2013.7.19.
西播磨 千種天児屋たたら跡 Walk MAP
千種周辺のかつて訪ねたことがある千種周辺産鉄の地
天児屋たたら跡
千種高原ユリ園
鳥ヶ屻トンネル
千種町
岩鍋 製鉄発祥の碑
鷹巣
トンネル
内海
斉木口
小茅野
野々隅原
安積
伊和神社
佐用町下三河
下野・漆野
大撫山
佐用町
林崎ひまわり
山崎断層
山崎
スプリング8
Image © 2013 DigitalGlobe
Image Landsat
Goo


ちくさ高原
志戸坂峠
ユリ園
天児屋たたら跡
西粟倉村
駒の尾山
笛石山
クラフトマンビレッジ
日名倉山
製鉄発祥の地碑
烏ヶ perpendicular トンネル
岩野辺
千種
内海
国道429
斉木口
三方
鷹巣
千種川
小茅野
野々隅原
宍粟市
安積山製鉄遺跡
安積
伊和神社
武蔵の里
智頭街道
佐用町
佐用町下三河
下野
漆野
佐用
大撫山
山崎断層帯
山崎
国見の森公園
出雲街道
播磨徳久駅
姫新線
与位の洞門
母栖ノ滝
中野
末広
安志
福知
古町
石井
平福
豆田
中三河
林崎
ひまわり畑
373
429
29
6
5
179


ゆり園
千種高原
天児屋たたら跡
後山
製鉄発祥地碑
千種
千種国道429
鍋岩
鳥ヶ巣トンネル
斎木口国道23
トンネル出口
内海
鷹巣
小茅野
野々隈原
安積山製鉄遺跡
安積
伊和神社
雪彦山
佐用町下三河三叉路
下野
津野
山崎
林崎ひまわり畑
佐用
宍粟
佐用郡
飾磨
揖保郡
一山
1084
日名倉山
1047
黒尾山
1025
船越山
727
後山
1281



西播磨　岡山・鳥取・兵庫の県境より流れ下る千種川　千種の街中の手前で　2013. 7. 19.

鮎釣りのシーズン 千種川のあちこちで釣り人を見かけました









「千草」の標識のある黒土で西へ日名倉山を越えて岡山へ抜ける国道429号を分け、
まっすぐ北へ千種の街中を抜けてゆく 2013.7.19.



千種の街中を抜けると三室・ちぐさ高原への一本道　千種川に沿って遡る　2013. 7. 19.





河内に入って　まっすぐ北へ三室高原へ行く道から左へ　西河内 千種高原への道に入る　2013.7.19.







西河内を右へ天児屋たたら跡への道をとると
まもなく山腹の林の中に学習館の建物とたたら跡が見えてくる　2013. 7. 19.



道の左側にたたらの里学習館　右側天児屋たたら跡　2013. 7. 19.

もつと荒れているのではと思ってやってきましたが、きれいに整備されていました


天児屋たたら公園

兵庫県指定史跡　天児屋鉄山跡

所在地　宍粟市千種町西河内字新口

【指定年月日】平成十四年四月九日

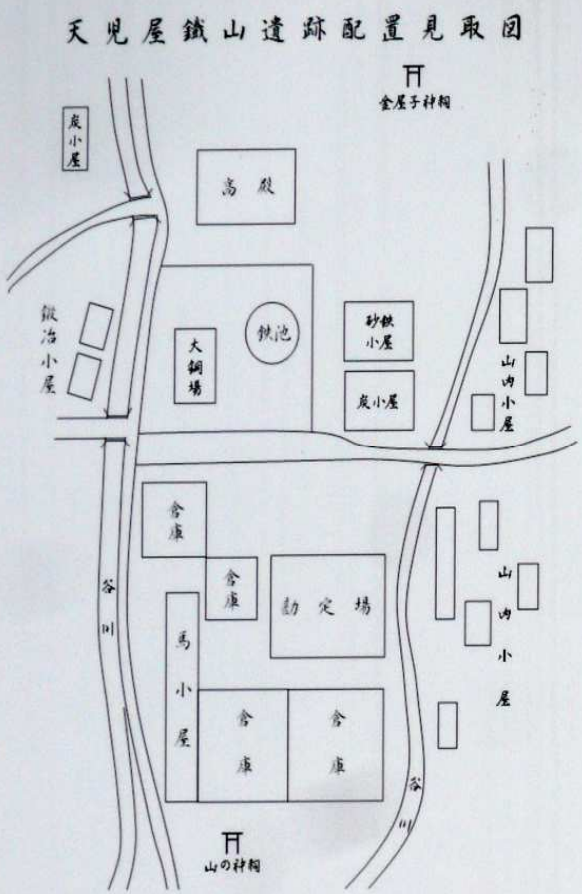
【概　要】城跡を思わせる整然と積まれた石垣が残る天児屋鉄山は、高殿（たたら）、勘定場（事務所）、砂鉄・炭小屋（材料庫）、山内小屋（社宅）など複数の建物群で構成されていた大規模な製鉄施設の跡である。

天児屋鉄山の主な操業期間は、江戸時代前期から明治十八年（一八八五）までの二百五十年余りと推定されるが、発掘調査の結果から、製鉄遺跡としての歴史はさらに中世まで遡るとも考えられている。

千種で産出される鉄は、その品質の高さから「千草鉄」の名で珍重され、特に中世、備前長船（現・岡山県瀬戸内市）の刀匠達は、それを原料に数多くの名刀を作り出した。

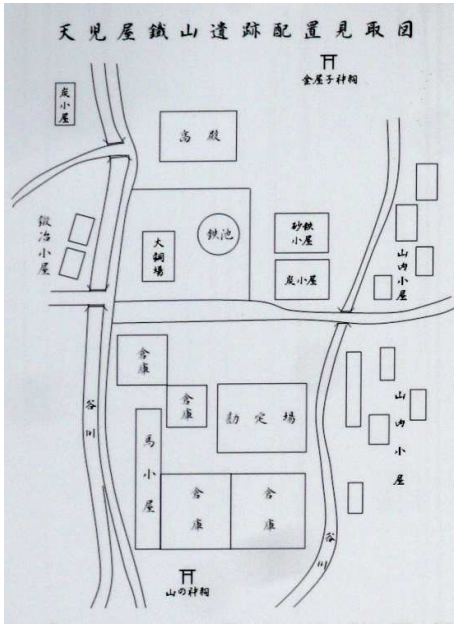
江戸時代に入ると、千種は徳川幕府の直轄地（天領）となり、天児屋鉄山は幕府から認可を受けた千草屋や鳩屋などの豪商「鉄山師」によって請負運営された。この頃には、刀以外にも生活用具の製造に必要な鉄の需要が増加し、山崎まで就航していた揖保川の高瀬船などを使って下流の姫路、さらに大坂方面へと出荷されるようになった。

江戸時代後期に盛時を迎えた天児屋鉄山には、数十戸から百戸、数百人を越える従業者が居住していたと推測されるが、近代に入ると鉄価格の下落によって運営が困難となり、明治十八年ついに閉山された。



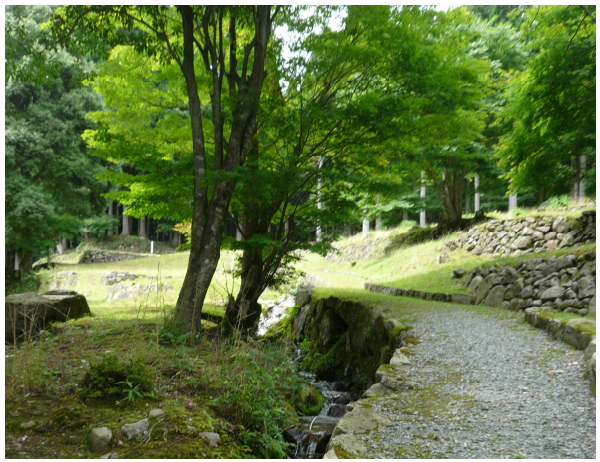
参考文献　鳥羽弘毅
『たたらと村』ほか





天児屋鉄山下流側上部から眺めた天児屋鉄山　2013. 7. 19.

写真左手:多々良の里学習館　中央:木々に囲まれて山の神　奥: 高殿






天児屋鉄山　高殿から大ﾄﾞｳ場・勘定場　2013.7.19.






山ノ神の上から勘定場・高殿跡を眺める　2013.7.19.


天児屋鉄山　高殿跡　2013.7.19.







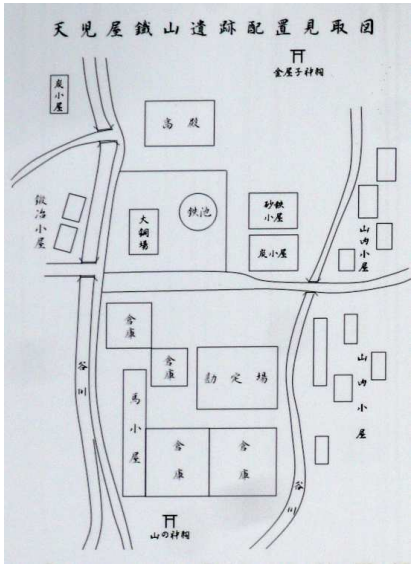








上流側 高殿側から天児屋たたら跡全景　　2013. 7. 19.





勘定場前より下流側

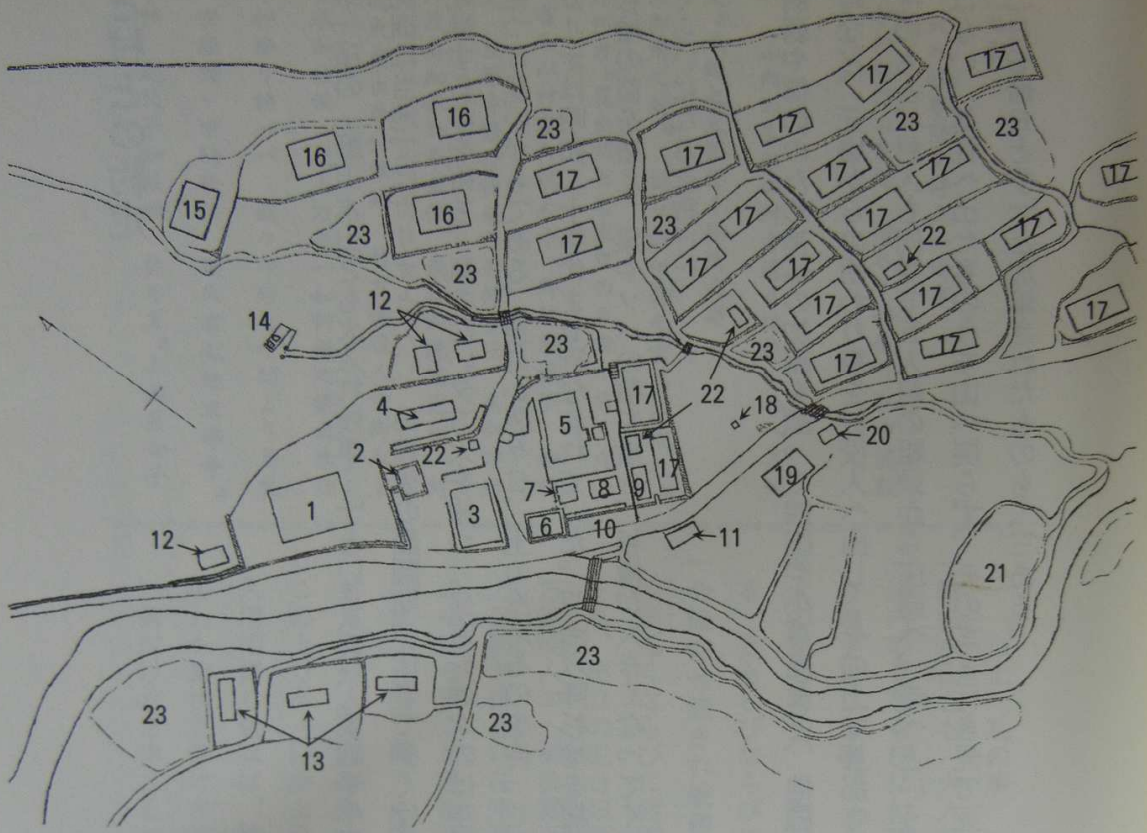


下流側 山ノ神の手前 学習館前より

千種 天児屋鉄山　全景　　2013. 7. 19.

天児屋鉄山諸施設配置図

鳥羽弘毅「たたらと村　千草鉄とその周辺」より



1	高殿	9	味噌小屋	17	山内屋敷
2	金池	10	牛つなぎ場	18	山ノ神祠
3	大鋼場	11	牛小屋	19	紺屋
4	砂鉄炭小屋	12	道具小屋	20	麻蒸場
5	勘定場	13	鍛冶小屋	21	カナクソ捨場
6	米蔵	14	金屋子神祠・妙見神祠	22	風呂
7	小鋼場	15	山配屋敷	23	麻畑
8	鉄倉庫	16	村下屋敷		

一般的な鉄山の諸施設を見ると一番上流側にたたら炉のある高殿→その下に金池とケラ・・ を分割する大・小ドウ場。小割りした・ （銑鉄）をそのまま出荷する場合もあるが、さらに再加熱脱炭して鋼にする大鍛冶場（左下場・本場）・小鍛冶場がある。これらの鉄生産諸施設を通って作られた鉄素材は事務所である元小屋・勘定場を通って、鉄山を出てゆく。また、鉄山の一角に金屋子神を祭る山ノ神がある。

上流側から下流側へのこの流れに沿って鉄山の諸施設あるはずなのですが、案内図ではこの鉄素材を作る諸施設のつながりがよくわからぬ。

「たたらと村　千草鉄とその周辺」に書かれていた天児屋鉄山諸施設配置詳細図と照らし合わせてやっと理解で来ました。

大ドウ場から道を挟んで反対側にある鍛冶小屋が、大・小鍛冶場のようだ。

また、小ドウ場は勘定場横の倉庫と記されているところにあると記載されている。

また、学習館の前に幾つもので石垣に区切られた区画は山内で働く人たちの住居区画のようだ。

案内板のちょうど向こう正面にある斜面を流れ下ってくる小さな溝・小川で　千種川の上流側鉄山の生産施設と事務所　下流側が住居区画に区分され、中央部の小川のすぐ横の林に山ノ神が祭られている。



生産諸施設が配置されている上流側



生産諸施設と居住区を区分する小川



居住区の石垣区分が並ぶ下流側　2013.7.19.





道路沿いの金屋子鉄山中央部　金屋子神を祭る金屋子鉄山の山の神　2013.7.19.



1	高殿	9	味噌小屋	17	山内屋敷
2	金池	10	牛つなぎ場	18	山ノ神祠
3	大鋼場	11	牛小屋	19	紺屋
4	砂鉄炭小屋	12	道具小屋	20	麻蒸場
5	勘定場	13	鍛冶小屋	21	カナクソ捨場
6	米蔵	14	金屋子神祠・妙見神祠	22	風呂
7	小鋼場	15	山配屋敷	23	麻畑
8	鉄倉庫	16	村下屋敷		



元小屋跡とその背後に山の神　　2013. 7. 19.



天児屋たたら　山ノ神　2013.7.19.



天児屋鉄山　高殿跡　　2013.7.19.



天児屋鉄山　高殿から大ドウ場・勘定場　　2013.7.19.









元小屋（勘定場）跡　　2013. 7. 19.



砂鉄小屋跡から高殿跡　　2013. 7. 19.



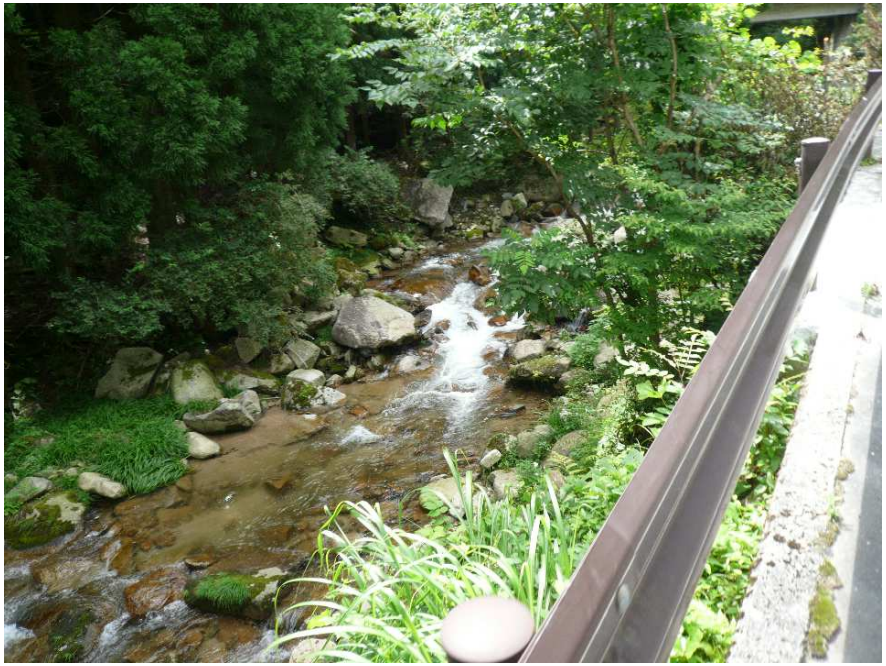
山ノ神の上から勘定場・高殿跡を眺める　　2013. 7. 19.



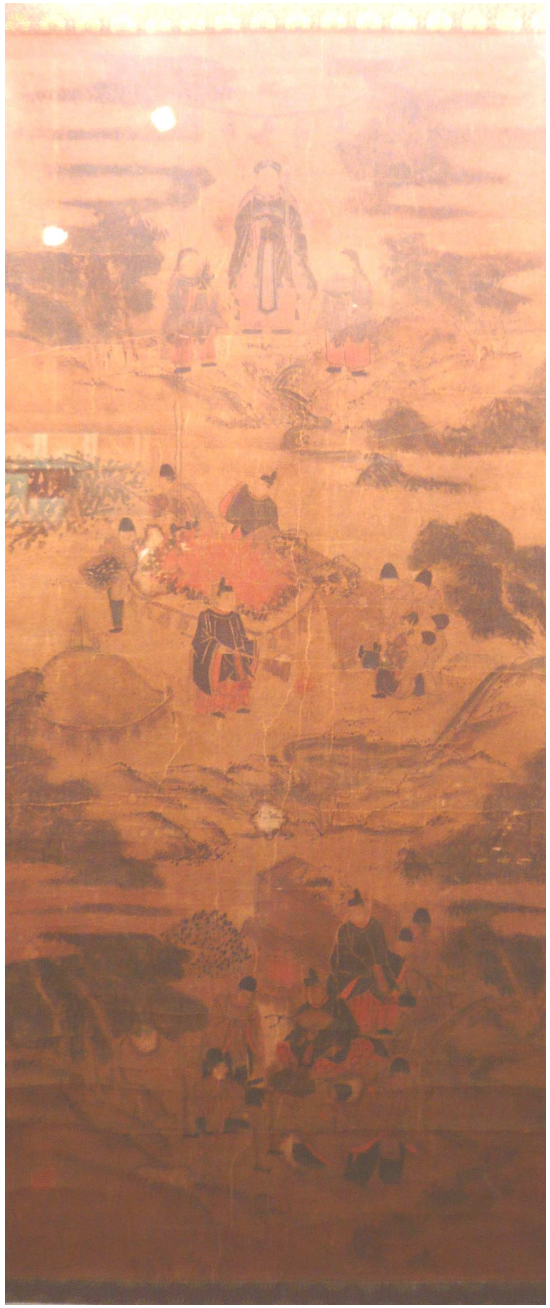
天児屋鉄山跡　全景　　2013. 7. 19.



たたらの里学習館



鉄山の道を挟んで流れ下る天児屋川







たたら製鉄の様子を描いた絵図　たたら学習館で　2013.7.19.



玉鋼からの日本刀作業工程　と　たたら製鉄の作業炉から最初に流れ出た初花

【参考】

先に兵庫県考古博物館資料「西播磨遺跡 リスト & 分布図」より西播磨の製鉄遺跡を選択整理して、「西播磨　佐用・千種の主要製鉄遺跡分布」を掲載しましたが、時代別に区分できていません。

今回訪れた天児屋鉄山跡にある天児屋学習館で鳥羽弘毅氏著「たたらと村　千草鉄とその周辺」に　千種や宍粟郡のたたらが栄えた近世の千種・宍粟のたたら跡や鉄穴跡の分布を記載されていた宍粟郡の近世の鉄山や鉄穴の分布リストを抜き出し、参考図として下記に記録しました。

大まかには西播磨の製鉄地帯の古代の中心は大撫山製鉄遺跡群を中心とした佐用。
そして、近世になると製鉄の中心は宍粟郡に移り、千種がその中心になります。
そして　千草鉄・宍粟鉄が刀剣素材として全国に広がって行きます。

【宍粟群（千種・波賀・南光・山崎）の近世 江戸時代の主要鉄山リスト】

鳥羽弘毅「たたらと村　千草鉄とその周辺」より整理

江戸時代　宍粟藩の主要鉄山

千草谷・三河谷・西谷（波賀）は1649年天領になり
この地区の鉄山はリストから離れている

表⑧

千草屋源右衛門	初代	寛永2～万治2
	二代	～延宝6
	三代	～元禄4

稼行年	1か年分運上銀 貫目	鉄山名
慶安2～承応2	?	鹿早・内海
承応2	1 720	広路（ひろじ）
承応3	430	鹿早（ししはい）
明暦1～2	1 720	〃
明暦3～万治2	8 600	〃
万治3～寛文2	8 170	〃
明暦2～寛文1	?	万ケ谷
万治2	1 720	内海
万治3～寛文2	2 580	〃
寛文2	7 920	赤西（あかさい）
寛文3～4	9 890	〃
寛文5～7	17 200	〃
寛文8	8 600	〃
寛文8	8 500	滝谷
寛文9～11	30 000	〃
寛文11～延宝2	430	水谷鉄山にある釜土を千草鉄山に
延宝2	215	
寛文10～延宝1	12 900	野々角（ののすみ）
寛文11～延宝4	4 988	樅ノ木（もみのき）
寛文12～延宝1	?	手洗（てあらい）
延宝2～6	2 150	〃
延宝1～3	4 300	鍵掛（かんかけ）
延宝4～天和1	6 450	〃
延宝3	43	鍵掛山より釜土千草鉄山へ
延宝1	12 900	カラノ谷
延宝2	2 150	〃
延宝3	3 225	〃
延宝3～4	?	溝谷（みぞたに）

延宝5～天和3	3440	〃
天和3～元禄1	6880	樅ノ木
元禄2～?	?	因州吉川村（八頭郡若桜町）

○寛文末期から千草屋宍粟郡内諸鉄山独占請負い

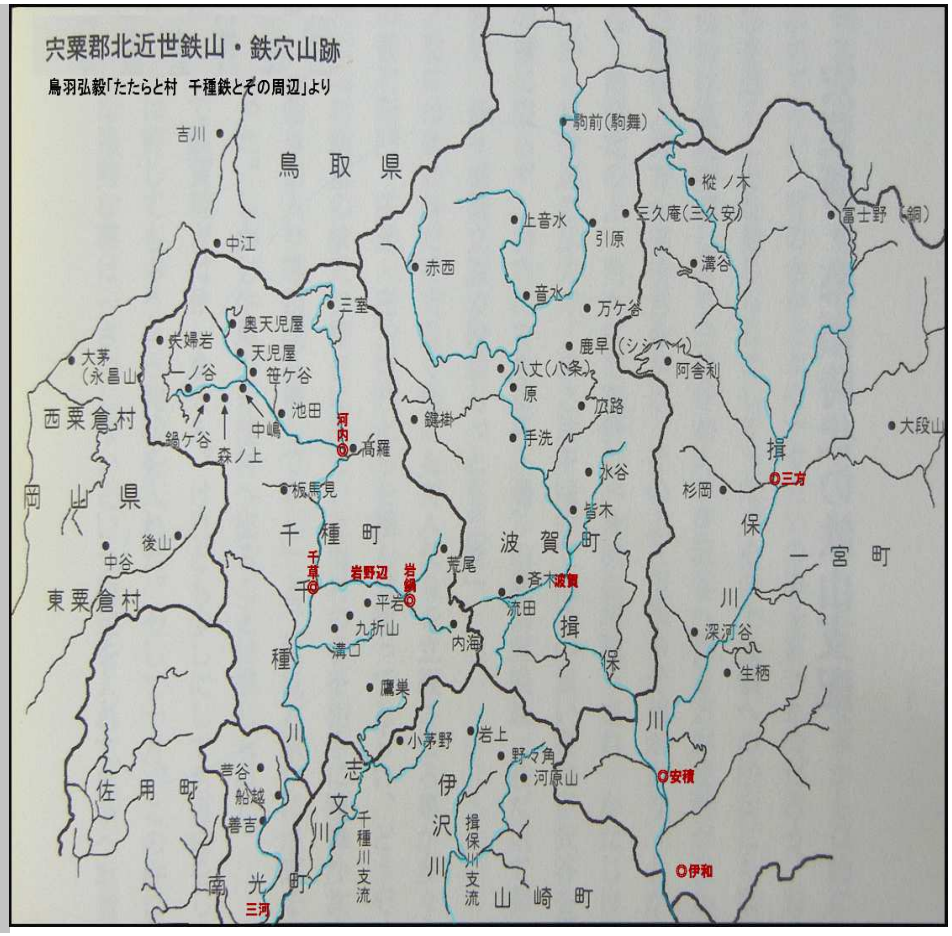
英賀屋喜三兵衛（あがや）		
慶安2～承応1	8170	広路、有ケ原カナリ
承応3～明暦1	3440	中ノ小屋2ケ所
明暦2	1290	中ノ小屋1ケ所
英賀屋六郎兵衛		
承応3～明暦2	1720	阿舎利
明暦3	6708	〃
明暦4	6515	〃
万治1～2	13223	〃
万治3	10750	〃
寛文2	10500	溝谷
寛文3～5	13846	〃
寛文6～8	15996	〃
寛文9	11997	〃
寛文10	2120	〃 余り鉄吹き
	1720	大段（おおだん）
万治3	2580	〃
寛文1～3	10750	阿舎利
寛文1～2	2580	梨ノ木
寛文3	2150	〃
寛文4	430	辰8月1ケ月分
米屋五郎兵衛		
明暦3～万治2	1720	八条
江戸多賀屋甫閑		
延宝8～天和3	?	上音水（かみおんず）
大津屋伝右衛門		
貞享2～元禄2	11180	赤西

宍粟 天領地の主要鉄山

4代目千草屋源右衛門信古（元禄9～享保15）

表⑨

有賀ノ鉄口	元禄8～享保10.
東山	元禄14. 享保10～15.
公文	元禄16. 正徳1. 享保10・15.
○作州大茅	元禄12～享保2.（文書による）
赤西	宝永2. 正徳6. 享保1. 10～15.
音水	宝永4・5.
鍵掛	宝永4～6.
篠山	宝永4～7. 正徳4.
斉木鉄口	宝永5～7. 正徳1. 享保9～15.
鹿早	宝永5.
太夕	宝永5.
タイ谷	宝永6.
三久庵	宝永5～7. 正徳1～享保1.
谷村鉄口	正徳1.
広路	正徳5～7.
久保原	正徳5.
樅ノ木	正徳5. 享保10・15.
万ケ谷	享保1・15.
中谷	享保1.
○鷹巣	享保3～15（成箇状による）
滝谷	享保4～6・11.
天児屋	享保6～15.
（船越・芦田	享保6～15.
善吉	
池田	享保9～14.
阿舎利	享保10～15.
溝谷	享保11・12.
東河内	享保13～15.



「６月半ば　この遺跡内はピンクのくりん草が咲き乱れ、多くの人が花を見にこの遺跡を訪れてくれたのですが、今日はあなた一人だけ。 くりん草の花の季節以外は静かなもの」と遺跡内の草取りなど整備をし、学習館の留守を預かる地元のおばあさんが言う。　かつてまだ整備される前の遺跡や千種でもらった資料　そして変貌する千種の様子などを話題にしながら、学習館を案内してもらう。
緑の森の中　整然と石垣で区割りされた山内跡などの製鉄遺跡がこんなにきれいに整備されているのを見ると、本当にうれしい。 もっと多くの人が訪れるようになれば‥‥と。 また、次はクリン草が咲いた時期に訪れようと。
西播磨へ来る楽しみがひとつ増えました。

「このすぐ近く千種高原にユリ園が開園して、今満開のユリが咲いている。是非　見に行って」と教えてもらって、千種高原のユリに立ち寄ってから、日本での製鉄発祥地伝承の残る岩鍋へ向かいました。



「クリンソウの咲く時に是非　おいで」と管理のおばさんに見送ってもらって　天児屋たたら跡を後にする　2013.7.19.

ちぐさ高原ユリ園へ　2013.7.19.



西河内のY字路まで戻って　ひとつ西の谷筋を少し登ると駒尾山の稜線近く、
千種高原スキー場のゲレンデー杯にユリの花が咲いていました。　2013. 7. 19.





西河内のＹ字路から千種川の源流部　鍋ヶ谷を遡る　　鍋ケ谷に入ってすぐ鍋ケ森大明神の横を通過

天児屋たたら公園管理のおばさんに進められて、ちぐさ高原のユリ園に立ち寄ってきました。

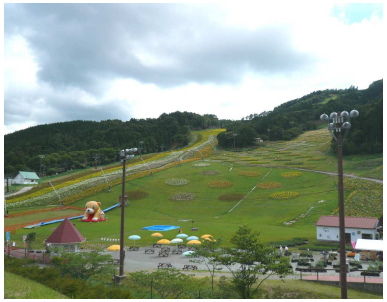
西河内の Ｙ 字路まで戻って、そこから千種川の源流部　鍋ヶ谷を遡る。鍋ケ谷に入ってすぐ鍋が森大明神のすぐ横を通過　この川沿いの森の奥にもたたら跡があると聞く。　15 分ほどで山腹に幾本もスキーゲレンデが広がる千種高原に到着。

そのゲレンデにびっしり、ユリの花が敷き詰められたように満開のゆりが咲いていました。

ここからすぐ上に見える稜線は岡山/兵庫の県境　駒ノ尾山へ続く稜線のすぐ下でした。







ちぐさ高原　ユリ園で　　2013.7.19.







ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.



ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.

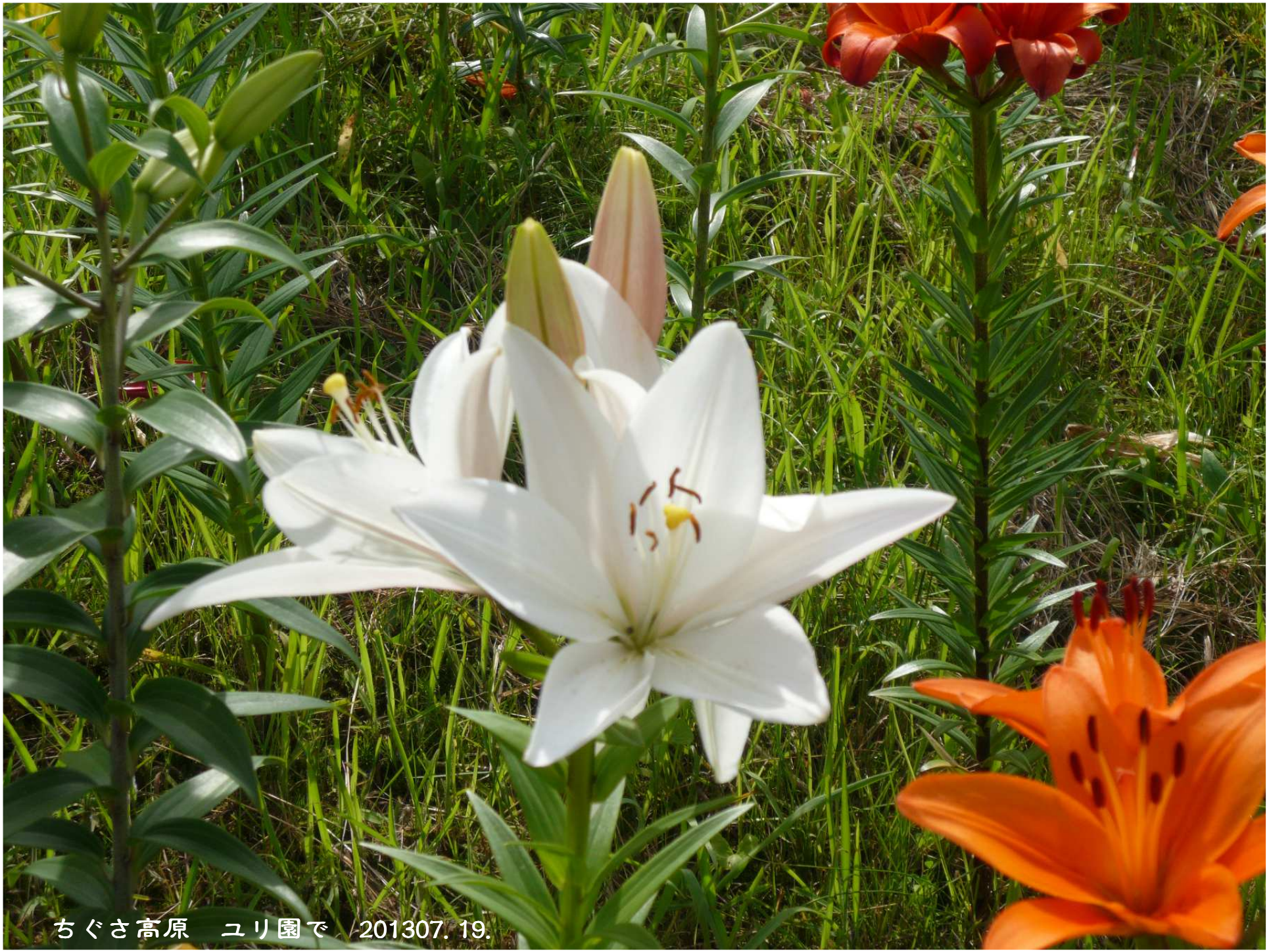


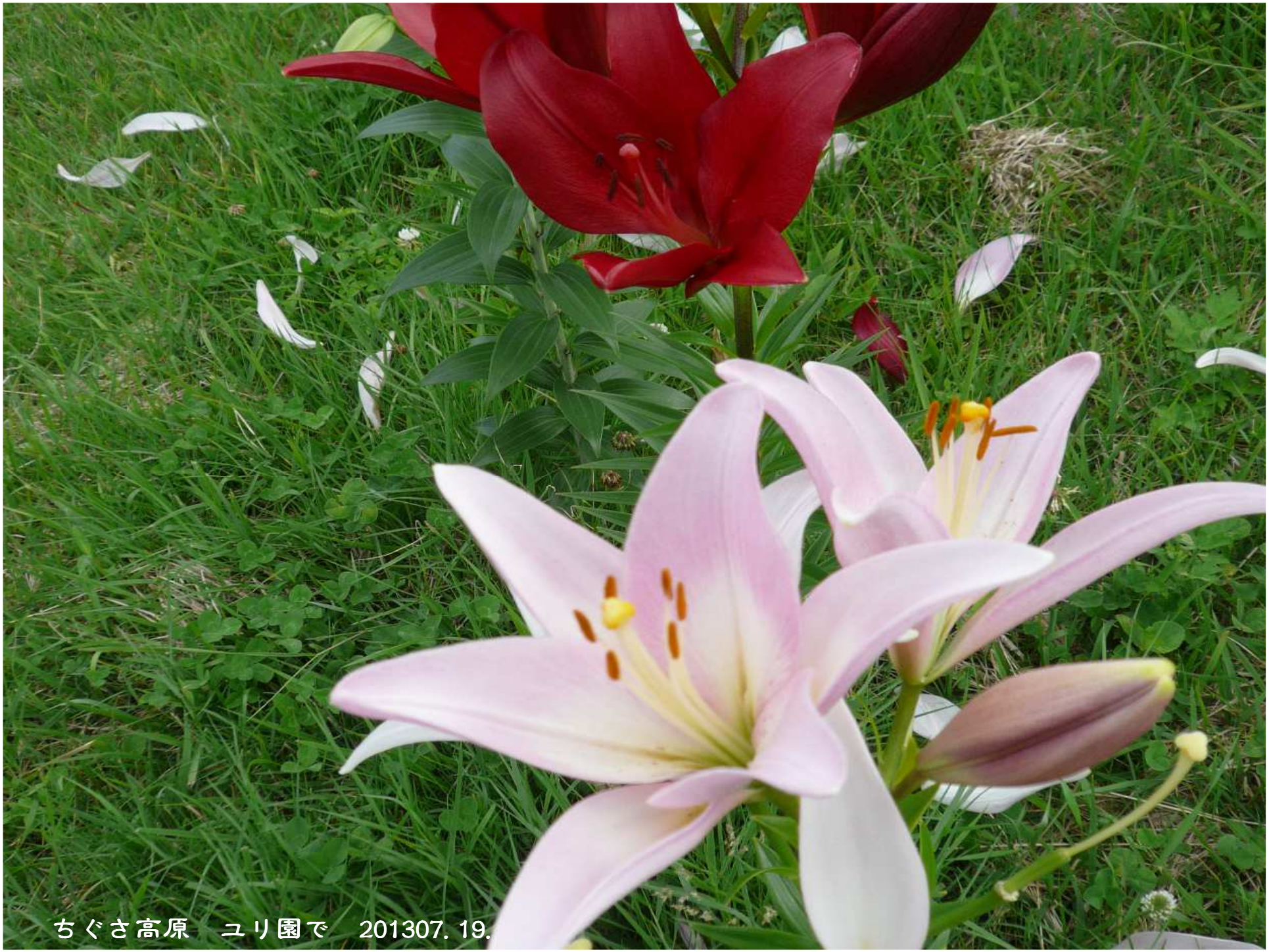
ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.



ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.


ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.


ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.


ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.



ちぐさ高原　ユリ園で　201307. 19.



後山を背に千種川沿いを千種の街まで戻る　　2013. 7. 19.

トンネルができて　便利になったと聞く
国道４２９号線を千種から東へ波賀町へ

岩鍋の古代製鉄発祥の地の碑を実に行く







千種の街まで戻ってきて、「千種」の交差点で国道 429 号線を東へ。

岩野辺からトンネルをぬけて、揖保川水系の波賀町に抜けて、揖保川沿いの国道 29 号線を山崎へ戻ってゆく。

かつては岩鍋から峠を越えて波賀町側に越えてゆく厳しい道で、この峠道の山間には数多くのたたら跡がある千種の製鉄地帯で、千種からこの峠にかかるところ岩鍋は古代製鉄発祥の地伝承の碑が建っていました。

そして、厳しい道だったとの思いはあるのですが、特に記憶はない。

その後　別途訪ねたことのあるたたら場野々隅原や小茅野はこの峠道の南側の山中で、この国道 429 号線へでるのが、街へでる最も有効な手段と聞いていたので、どんな風につながっているのかも気になっていました。

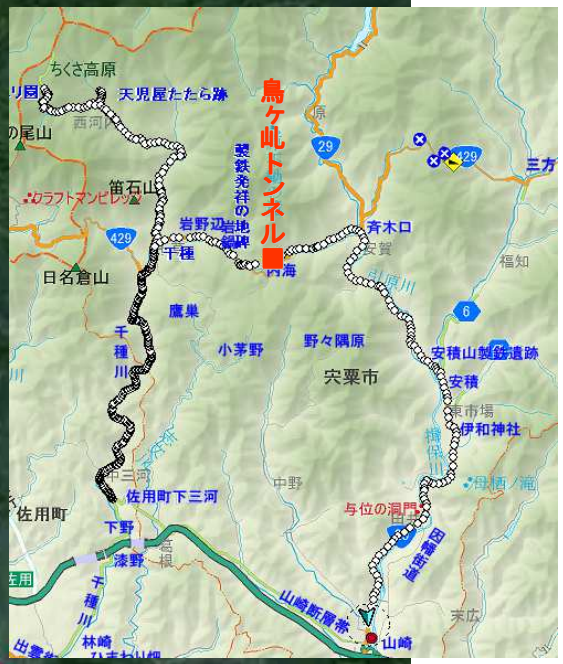
また、そんな峠道国道 429 号線に「今はトンネルが開通し、道が改良され、非常に便利になった」と聞いた。

あの古代製鉄発祥の地伝承の碑はどうなったろうか??

そして　トンネルの新しい道はどんな風に波賀町へ抜けてゆくのか??

興味深々で「千草」の交差点を東に折れて　国道 429 号線を行く。







国道429号（鳥ヶ屋トンネル）



千種　岩鍋　古代製鉄発祥の地の記念碑



製鉄神　金屋子神

播磨国宍相(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。
村人にタタラによって鉄を作ることを教え，様々な道具を作る技術を人々に授けた。 そして，「これから西の方へ行き，鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と，白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後，金屋子神は出雲国に飛来し，能義郡比田の森に降り立ったと言う。



千種　天児屋たたら跡





主要遺跡名

1 才金B遺跡（上月町）
2 金屋中土居遺跡（上月町）
3 カジ屋遺跡（佐用町）
4 山平B遺跡（佐用町）
5 永谷B・C遺跡（佐用町）
6 坂遺跡（佐用町）
7 西下野製鉄遺跡（南光町）
8 滝谷U遺跡（佐用町）
9 安積山遺跡（一宮町）
10 小茅野後山遺跡（山崎町）

天児屋製鉄遺跡

岩鍋製鉄発祥地碑



播磨北部（佐用郡・宍粟郡）の製鉄遺跡



千種から東へ国道４２９号線　後山をバックに岩野辺のなだらかな坂道を
登ってゆくと　左手坂の途中に碑が見えてくる





岩鍋　古代製鉄発祥の地の碑　2013.7.19.

製鉄神　金屋子神降臨伝承

播磨国宍相(粟)郡の山間の村岩鍋に天から神が示現。「わたしは金山彦。天目一箇神ともいう金屋子神である」と明かす。そして、人にタタラによって鉄を作ることを教え，様々な道具を作る技術を人々に授けた。

そして，「これから西の方へ行き，鉄を吹き道具を作ることをさらに多くの人々に教えねばならない」と，白鷺に乗って天空高く飛び立った。その後，金屋子神は出雲国に飛来し，能義郡比田の森に降り立ったと言う。 この岩鍋は現在の千種 岩野辺である







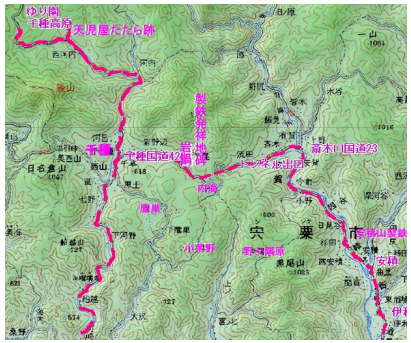
「日本古代製鉄発祥　金屋子神降臨の伝承地」の碑



山越の鳥ヶ屻トンネルへと続く坂道



上部から碑の在る平地部を振り返る







岩鍋　古代製鉄発祥の地の碑（坂の上方より）　2013.7.19.



坂の上方より、岩鍋の集落を眺める　2013.7.19.





岩野辺から東へ　波賀町への峠道　岩野辺
背後に先ほど下ってきた千種の後に聳える後山が右手に見える。

古代の製鉄地帯の真っ只中　難所だったこの道も今は鳥ヶ峠トンネルで抜ける。
開通後通うるのは初めて

インターネットから採取　鳥ヶ峠トンネル

千種から東へ　岩野辺から山越えで揖保川水系の波賀町斉木へ
国道429　鳥ヶ屻（とりがたわ）道路と鳥ヶ屻トンネル 開通

千種から岩野辺を通り内海を経て鳥ヶ峰を越えて西谷村（現・宍粟市）に至る「岩野邊道」が当道路の由来とされる。昔の本道路は峠を境に岩野辺側は比較的緩やかで、斉木側は急傾斜となっていた。
急峻な谷間から峠越えするルートのため、大型車のすれ違いが困難で、さらに冬季の積雪による通行止めが頻発するなど、交通の障害となっていた。これらを解消するため、トンネルを含む道路の改築事業に着手し、鳥ヶ屻トンネル 開通とともに　2008年11月11日にとりがたわ道路全体が供用開始された。



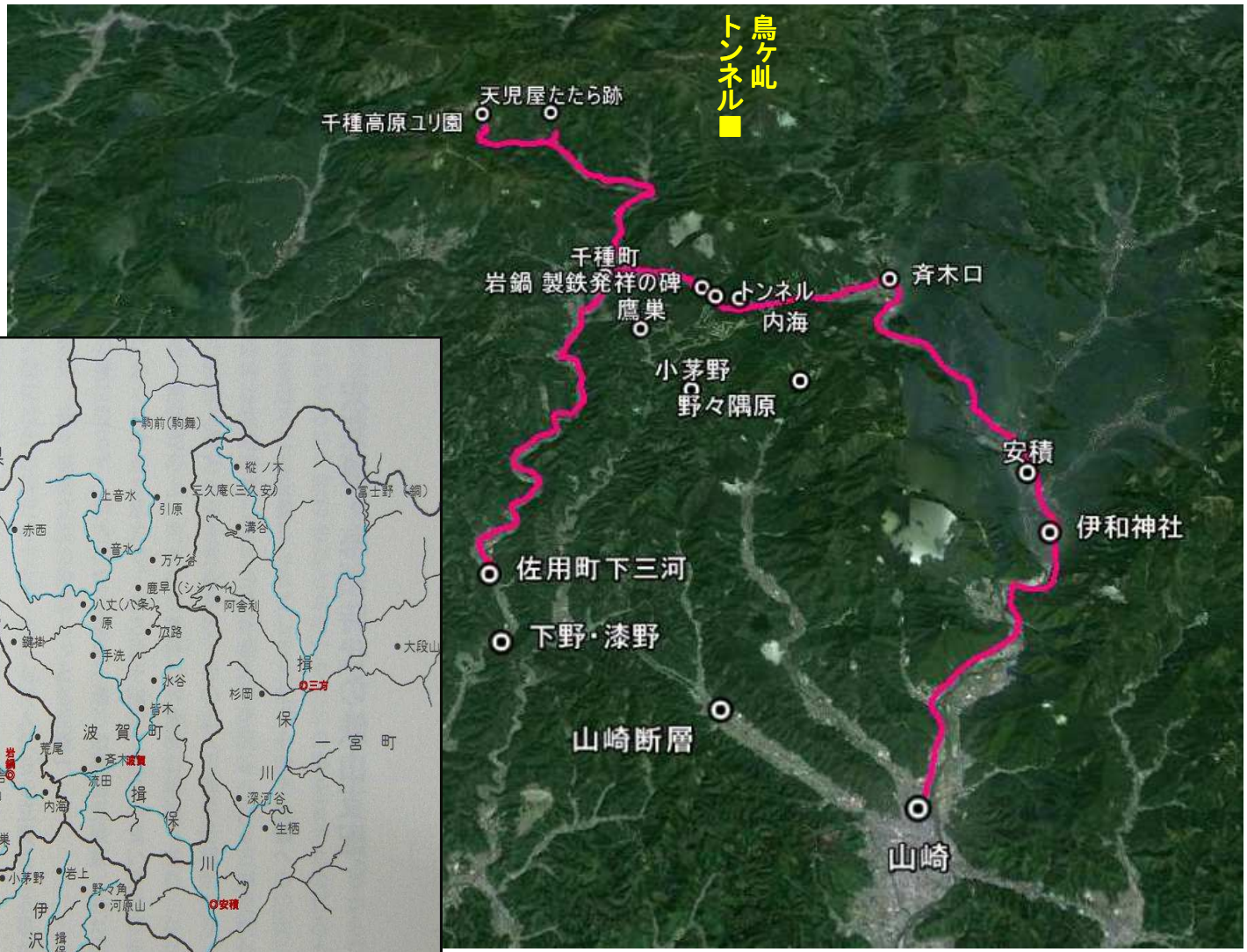
インターネットから採取　鳥ヶ屻トンネル

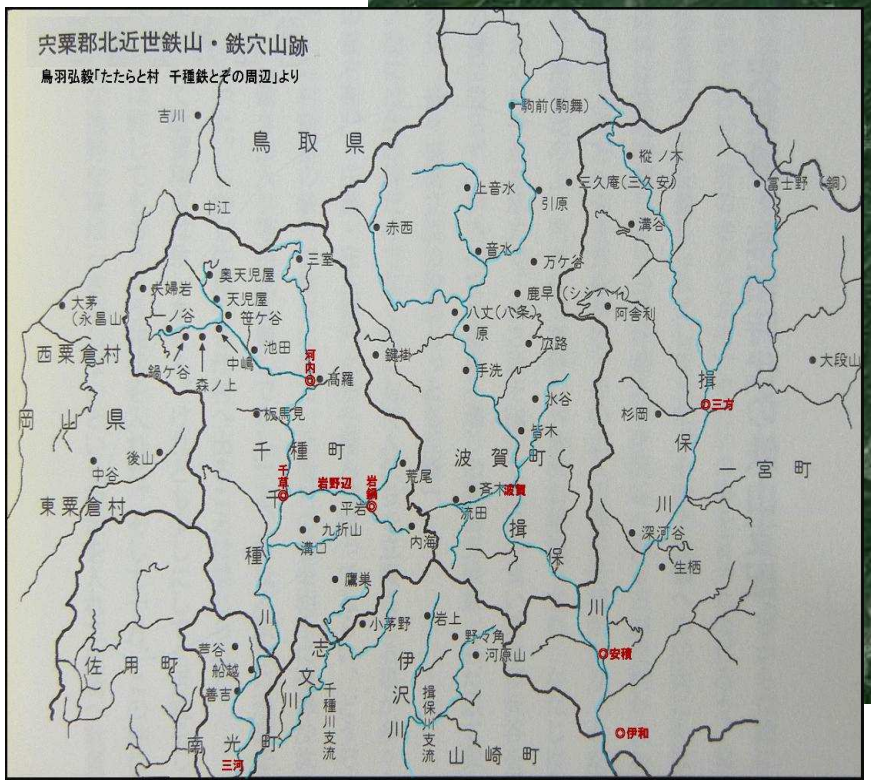


長さ1222mの鳥ヶ屻トンネル を抜けるとあっけなく波賀町斉木の集落に出る　2013. 7. 19.

正面南北に連なる山沿いを揖保川が流れ、鳥取と宍粟市をつなぐ国道29号が走っている

国道２９号線に出ると揖保川に沿って山崎へ下る
この川筋も古代の製鉄地帯　波賀町・一宮町にも製鉄神伝承があり、
数多くのたたら跡が点在する







国道２９号線に出ると揖保川に沿って山崎へ下る
この川筋も古代の製鉄地帯　波賀町・一宮町にも
製鉄神伝承があり、数多くのたたら跡が点在する



斉木口で揖保川の本流に出会って、揖保川沿いの国道 29 号線を一宮町から山崎へ下る。この道も何度も走った道で　この揖保川の上流域にも数多くの製鉄遺跡が点在する宍粟の製鉄地帯。しばらく下ると安積の集落に入って　安積山製鉄遺跡の山裾を通って伊和神社の前の道の駅へここまで来ると山崎ももうすぐで、ほっとする。
千種から約１．５時間ほどで山崎へ出て後は山崎断層の中を福崎に出て神戸へ。
久しぶりの千種再訪がうれしい１日でした



2013.7.19.　夕暮れ近く西日を背に受け神戸への帰路で

BY Mutsu Nakanishi

【和鉄の道・Iron Road】 西播磨の古代製鉄地帯

宍粟・佐用の製鉄関連遺跡　探訪

1. 古代鉄の大王国　播磨国 「千種鉄」「岩鍋」 2001.1.
古代製鉄神　金屋子神　降臨伝承の地
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/jstlbb01.pdf

2. 古代製鉄の一大生産地「讃容の里」Walk　2003.11.
西播磨　佐用町　大撫山製鉄遺跡を訪ねて
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron01.pdf

3.「御方里」周辺　安積山製鉄遺跡探訪　一宮町 2004.2.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron07.pdf

4. 産鉄の地 「御方里」の里を訪ねて　一宮町　2004.6.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/4iron10.pdf

5. たたら製鉄 砂鉄採取の地形　西播磨　砥峰高原
一面ススキが覆いつくす　砥峰高原　　2007.10
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/7iron18.pdf

6. たたらの郷に「ジキタリス」の花園を訪ねる 2009.6.21.
奥播磨黒尾山西北山麓　宍粟市山崎町　野々隅原
大国牧場　花のWalk
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/9iron07.pdf

7　奥播磨　千種川に注ぐ恋文川源流　　2010.7.20.
たたらの郷　宍粟市山崎町小茅野（こがいの）集落を訪ねる
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/10iron08.pdf

8.「初期大和王権の成立に大きな役割を演じた西播磨」
西播磨で古墳時代後期末の鍛冶炉跡が出土
有年 牟礼・井田遺跡を訪ねる 2011.3.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/11iron02.pdf

9. 千種川流域に咲くひまわり畑と製鉄神「天目一筒神」を祭る「天一神社」を訪ねる

佐用　　西播磨佐用町（旧南光町）林崎　2012.8.
http://www.infokkkna.com/ironroad/dock/iron/12iron06.pdf





久しぶりに千種天児屋たたら跡・岩鍋を訪ねる 2013.7.19.

おしまい

